

		本件意匠2	被告意匠
基本的 構成態様	①	上側に位置する略円柱状の胴部（「第1胴部」）の下面，	同左
	②	下側に位置する略円柱状の胴部（「第2胴部」）の上面，	同左
	③	第1胴部と第2胴部との間の円柱状の溝部，	同左
	④	第2胴部側面の一对の対向する切欠部（第2切欠部）	同左
		からなる。	同左
		第1胴部下面及び第2胴部上面は，ランプの回転軸に垂直であり，溝部は同軸を中心に設けられている。	同左
具体的 構成態様	A	第1胴部下面の形状	
		円を，回転軸に向かって凹の円弧状の緩やかな一对の対向する曲線（以下「曲線A」という。）により，点対称及び線対称をなすように切り欠いて形成した面	円を二つの略S字状の一对の対向する曲線（以下「曲線A」という。）により切り欠いて，点対称をなし線対称をなさないように形成した面
	B	第2胴部上面の形状	
		第1胴部下面の円と等しい直径を有する第2胴部を構成する円を両側から，回転軸に向かって点対称及び線対称をなすように凹状に切り欠いた面であり，	同左
		その切欠形状は凹の幅が切欠部全体の概ね2割，深さが凹の幅の概ね4割の円弧状の部分をも有する一对の対向する直線（以下「有凹直線B」という。）により，切り欠いて形成した面	その切欠形状は凹の幅が切欠部全体の概ね4分の3，深さが凹の幅の概ね2割の円弧状の部分をも有する一对の対向する直線（以下「有凹直線B」という。）により，切り欠いて形成した面
		曲線A，有凹直線Bはいずれも同じ向きであり，有凹直線B間の距離は，曲線A間の距離よりも長い。	同左
	C	第2切欠部の形状	
		第2胴部の円柱を，有凹直線Bによって回転軸の方向に切り欠いた面であり，切欠面は平面としての長方形で，その中央に幅が第2切欠部全体の幅の概ね2割，深さが溝の幅の概ね4割の円弧状の溝が設けられている。	第2胴部の円柱を，有凹直線Bによって回転軸の方向に切り欠いた面であり，切欠面は平面としての長方形で，その中央に幅が第2切欠部全体の幅の概ね4分の3，深さが溝の幅の概ね2割の円弧状の溝が設けられている。
	D	溝部	
		溝部を構成する円柱の底面の直径は，曲線A間の距離よりもやや短い。	溝部を構成する円柱の底面の直径は，曲線A間の回転軸を通る最小距離とほぼ同一である。
	E	各構成部分の構成比率	
		放電ランプ口金部の①～④の各構成部分において，	同左
		一对の切欠部を有する幅狭縦長の直径をaとする第1胴部下面と，この第1胴部の切欠部の幅bより大きい幅dの一对の切欠部を有する幅広の直径をcとする第2胴部上面と，第2胴部に設けられた幅e，高さfの一对の第2切欠部と，第1胴部と第2胴部との間に形成された高さgの溝部としたとき，	同左
		各構成部分の構成比率 a : b : c : d : e : f : g は，	同左
		「26 : 20 : 26 : 23 : 11 : 7 : 3」である。	「26 : 20 : 26 : 23 : 11 : 10 : 3」である。